



第48回 イスラーム王朝史① :イベリア半島と北アフリカ

1 イベリア半島を支配したイスラーム王朝

- ・869年、アッバース朝に対してザンジュの乱という黒人奴隷の反乱が起きた。
- ・このように9世紀に入ると、アッバース朝は徐々に衰退を始めた。
→広大な領土の各地で（ ）と呼ばれる司令官が自立し、新たなイスラーム王朝を樹立していった。

☆（ ）(756~1031年)

都…（ ） ※現在のスペインにある

- ・756年、ウマイヤ家の一族がイベリア半島に逃れて建国した。



コルドバの大モスク
イベリア半島南部の都市である。メスキータと呼ばれる大モスクが有名。今もイスラーム教を思い起こさせる建築物が多く残っている。

◆アブド=アッラーフマーン3世(在位912~961年)

- ・カリフの称号を使用し始めた(西カリフ国)。
- ・後ウマイヤ朝の最盛期の君主で、イスラーム文化が非常に栄えた。

2 北アフリカのイスラーム王朝

- ・8世紀、モロッコで最古のシーア派王朝であるイドリース朝が成立した。
- ・11世紀、北アフリカの（ ）と呼ばれる地域では、（ ）という先住民のイスラーム化が進んだ。
→彼らはモロッコを中心に王朝を建て、イベリア半島も支配した。

☆（ ）(1056~1147年)

都…（ ） ※現在のモロッコにある

- ・ベルベル人が、北アフリカやイベリア半島などを支配した。
- ・アフリカの（ ）を攻撃した。

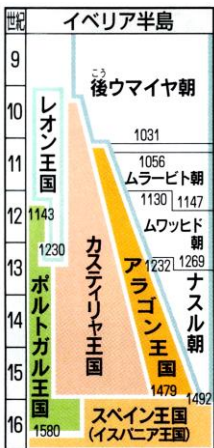


マラケシュ
ムラービト朝により建設され、「南方産の真珠」の異名をもった。
写真はムワッヒド朝時代に建設された門。

☆（ ）(1130~1269年)

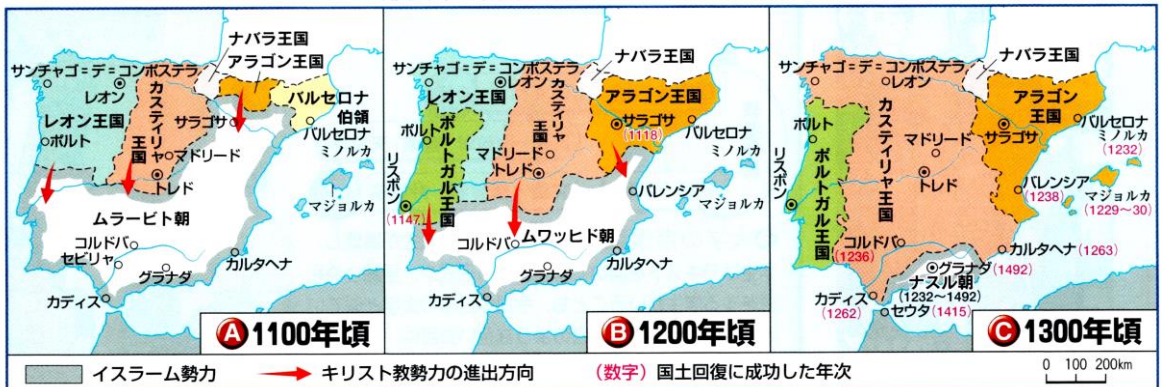
都…（ ） ※現在のモロッコにある

- ・ベルベル人が、ムラービト朝を滅ぼして建国した。



レコンキスタ 国土回復運動

●解説 レコンキスタはスペイン語で再征服の意。イスラーム教徒支配下のイベリア半島をキリスト教徒が再征服していった運動。8世紀初め~1492年のグラナダ陥落まで続いた。



3 レコンキスタの開始

- ・十字軍と連動して、キリスト教勢力はイベリア半島にも進出していった。
→この活動をスペイン語で（ ）という。
→イスラーム勢力は、徐々にキリスト教勢力に押されていった。

☆（ ）（1143～1910年共和政へ移行）

都…（ ） ※現在もポルトガルの首都

- ・12世紀に、カスティリヤ王国から独立した。
- ・15世紀前半には、アフリカ西海岸に進出していった。



エンリケ航海王子

大航海時代を語るには欠かせない人物。1444年には、西アフリカのヴェルデ岬に到達した。第82回で再登場する。

☆（ ）（10世紀頃～1479年）

- ・10世紀頃に建国されたキリスト教国で、レコンキスタの中心的役割を果たした。

☆（ ）（11世紀頃～1479年）

- ・11世紀頃に建国されたキリスト教国で、レコンキスタの中心的役割を果たした。

<イベリア半島最後のイスラーム王朝>

☆（ ）（1230～1492年）

都…（ ） ※現在のスペインにある

- ・キリスト教勢力に押され、都のグラナダのみを支配する小国家であった。
- ・イスラーム建築の最高傑作である（ ）を建設した。



サラゴサ

アラゴン王国の都はサラゴサに置かれた。現在もスペインのアラゴン州の州都である。入試にはまず出ないが非常に美しい町で、スペインに行ったらぜひ訪れて欲しい。



グラナダのアルハンブラ宮殿

アルハンブラとは、アラビア語で「赤い宮殿」を意味する。特に夕焼けの時間帯は非常に美しい。「アルハンブラの思い出」というギター曲でも有名です。

4 レコンキスタの完成

- ・1469年、カスティリヤ王国の王女（ ）と、アラゴン王国の王子（ ）が結婚した。
→1479年、両国は合併しスペイン王国が成立した。

☆（ ）（1479～1931年、1975～2019年現在）

- ・（ ）年、グラナダのナスル朝を滅ぼして、レコンキスタを完成させた。

※同じ年、（ ）が「新大陸」に到達した。



フェルナンドとイサベル

ふたりはカトリック両王と呼ばれた。なお娘のファナは、ハプスブルク家のひとりと結婚している。そうして生まれたのが、あのカール5世(カルロス1世)である。第91回で詳しくやります。



グラナダ陥落

2年間にわたって抵抗してきたナスル朝の君主は、1492年1月、降伏して国外退去した。これによりイベリア半島からイスラーム勢力は消滅した。